

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03288

研究課題名(和文) 政党の自己組織変革能力・日英独の政党と議員の組織とイデオロギー

研究課題名(英文) Ability to self-organizational reform of political party

研究代表者

河崎 健 (KAWASAKI, Takeshi)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：20286751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：「政党は同じような政策・イデオロギー志向をもつ議員から構成されるべきだ」。政界再編が話題に登る度に、我が国ではこのような論調が繰り返されてきた。だがこれは本当なのだろうか。本研究では、この論調に答えるべく、政党のイデオロギーと社会構造の2つの側面から分析を試みてきた。考察する国は、先進国で議院内閣制を採用する日本、英国、ドイツの3ヶ国である。ドイツについては社会構造を中心とした議員と政党の分析は出版物として成果を発表できた。日本についてはドイツとの比較で学会発表を行った。英国については、専門家との意見交換を行った。

研究成果の概要(英文)：It is frequently mentioned that the policy orientation and ideology of the MPs in the same political party have to be as cohesive as possible. Is such these everytime releable? In this study I tried to analyse the ideology and social structure of political parties in Germany, Japan and the UK. About the social and organizational structures of German political parties I could analyse in detail, and published some articles. In the workshop I have reported with another researcher the different characters of German and Japan's female MPs. About the UK I could exchange our views with the British specialists of that areas.

研究分野：政治学

キーワード：ドイツ 政党

1. 研究開始当初の背景

研究者は、ドイツの政治家の立候補と議会・政府内での昇進過程について研究してきた。その中で、多種多様な政治家や候補者の人事を統括する政党がなぜ一体性を保ち続けているのか、疑問に思うようになった。我が国で政党の離合集散が繰り返されるのとは対照的な政党の凝集性を構成する要素は何か。このような疑問から本研究の着想を得た。

具体的には、2014年5月の日本選挙学会研究会での「民主党の組織」をテーマにしたセッションに参加した際、発表者や討論者の話から本研究の問題提起についての着想を得た。本研究の実施のためには、とくに日英の二大政党の庶民院議員（衆議院議員）についてのデータベースを構築する必要があるため、改めて別の研究で新たなデータベースを準備してとりかかるとにした。下地にしているデータがあること、国内外の研究者とすでに前研究での協同作業を実施していることから、新たな研究として始めても支障はないと考えられる。

2. 研究の目的

「政党は同じような政策・イデオロギー志向をもつ議員から構成されるべきだ」。政界再編が話題に登る度に、我が国ではこのような論調が繰り返されてきた。だがこれは本当なのだろうか。本研究では、この論調に答えるべく、政党のイデオロギーと社会構造の2つの側面から分析を試みる。考察する国は、先進国で議院内閣制を採用する日本、英国、ドイツの3ヶ国である。対象とする時期は1990年代以降で、主な対象とする政党は首班政党として政権を構成できる可能性をもつ自由民主党・民主党（日本）、保守党・労働党（英国）、キリスト教民主同盟・社会民主党（ドイツ）である。

本研究の独創点は、以下の3点に整理

できる。a)英独2国を通して欧州政党研究と議員研究を統合した、我が国にほとんど見られない研究を展開できる、b)政党の組織とイデオロギーの相互作用により比較政党研究に一定の貢献ができる、c)日本の政党も比較の対象とすることで、日本の政党政治、とりわけ第二党が支持拡大を企図する際の有力な示唆を提示することができる。

3. 研究の方法

本研究では、政党の組織的特徴とイデオロギー志向を、議員のキャリアを通して分析する。そのために実証面では、①議員の政治キャリアの整理・分析、②政党のイデオロギー特徴の変遷の分析、③主要政治家のイデオロギー志向の分析、の3点が主要作業となる。

4. 研究成果

上記の方法のうち、ドイツについては、①と②について一定の成果をあげることができた。日本と英国については、十分な実証分析を行うには至らなかったが、2次文献を通して得た知見を、雑誌での評論などで発表した。

- ① 議員の政治キャリアの分析は、ドイツについては、1949年から2018年までの連邦議会議員のデータベースを構築し、具体的な分析を行った。
- ② 政党のイデオロギーについては、ドイツ統一以降の各党別の歴史を追い、イデオロギーや政策の変遷を調べた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計16件)

- ① 河崎健「2017年ドイツ連邦議会選挙の結果と評価についての一考察」『日本選挙学会年報・選挙研究』No.34-1、54-65頁。(最終原稿は、2018年2月提出、出版は2018年6月予定)、査読無。

- ② 河崎健「ドイツ連邦議会選挙制度改革—終わりなき論争?—」河崎健編『日本とヨーロッパの選挙と政治』ぎょうせい、上智大学出版、117-140 頁。
(最終原稿は、2017 年 10 月提出、出版は 2018 年 5 月)、査読無。
- ③ 河崎健「統一以降のドイツ社会民主党の動向」『上智大学外国語学部紀要』第 52 号 (2017)、2018 年、15-39 頁、査読無。
- ④ 河崎健「2017 年ドイツ連邦議会選挙—選挙制度改革の気運は再来するか?—」『月刊・選挙』2017 年 11 月号、1-6 頁、査読無。
- ⑤ 河崎健「ポピュリズム・政党政治研究委員会報告③ ドイツでポピュリスト政党は成功できるのか?—制度の壁は厚いが、ポピュリズムの台頭は不可避—」『改革者』2017 年 11 月号、32-35 頁、査読無。
- ⑥ 河崎健「一強多弱』の閉塞感をどう克服するか」政策研究フォーラム 2017 年全国会議「日本の活路をどう切り拓くか」2017 年 2 月 24 日 (コクヨホール・講演録)、『改革者』2017 年 5 月号、6-13 頁、査読無。
- ⑦ 河崎健「戦略としての「政治の言葉」ドイツの保守・リベラル・社会」『改革者』2017 年 3 月号、52-55 頁、査読無。
- ⑧ 河崎健「有能な候補者のリクルートこそ政党の役割だ-ドイツの政党を通して日本の政治を考える」改革者特別インタビュー (インタビュー: 加藤伸吾) 『改革者』2017 年 1 月号、6-11 頁、査読無。
- ⑨ 河崎健「統一ドイツ下のキリスト教民主同盟の発展と近年の動向」『上智大学外国語学部紀要』第 51 号 (2016)、2017 年、57-76 頁、査読無。
- ⑩ 河崎健「特集: 議院内閣制における党首任期制・ドイツ-頻繁な選挙だが長期政権」『改革者』2016 年 11 月号、21 頁、査読無。
- ⑪ 河崎健「英国の EU 離脱・急がれる「離れていく友人」との新たな関係構築」『改革者』2016 年 9 月号、24-25 頁、査読無。
- ⑫ 河崎健「欧州危機と積極化するドイツ外交-変化をめぐる状況と議論を中心

に-」『上智ヨーロッパ研究』第 10 号、2016 年、31-53 頁、査読無。

- ⑬ 河崎健「ドイツの難民政策から何を学ぶか」『改革者』2016 年 1 月号、40-43 頁、査読無
- ⑭ 河崎健「ドイツの対ロシア・対ウクライナ政策」『改革者』2015 年 7 月号、22-27 頁、査読無。
- ⑮ 河崎健「ドイツにおける統合と代表の論理」『日本政治学会年報・年報政治学』2015 年度-II、2015 年、11-34 頁、査読無。
- ⑯ 河崎健「ドイツ連邦議会の選挙制度改革をめぐる議論—2013 年選挙の結果との関連で—」『日本選挙学会年報・選挙研究』2015 年、No.31-1、44-55 頁、査読無。

[学会発表] (計 3 件)

- ① 河崎健、新川匠郎「日本とドイツにおける女性政治家の輩出—質的比較分析を通じて」(新川匠郎氏と共同発表)、日本政治学会 2017 年度総会・研究大会、2017 年 9 月 24 日 (法政大学)。
- ② 河崎健「ドイツの政党と政策—政党差異仮説を中心に—」日本選挙学会総会・研究会報告、分科会 A・比較部会「政党と政策研究のフロンティア」2016 年 5 月 14 日 (日本大学)。
- ③ 河崎健「ドイツにおける政治資金の理論と実際」駒澤大学マスコミュニケーション・シンポジウム『政治とカネ: 各国比較の観点から』2015 年 5 月 30 日 (駒澤大学)。

[図書] (計 1 件)

- ① 『ドイツの政党の政治エリート輩出機能』2015 年、コンラート・アデナウアー財団、366 頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河崎 健 (KAWASAKI, Takeshi)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：20286751

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()